

切り出しの鍛造を体験する子供 長岡市の与板小



伝統の刃物、鍛冶体験教室

長岡・与板小

長岡市与板町の市立与板小で10日、400年の歴史をもつ与板打刃物に触れる鍛冶体験教室があった。4年生45人が地元の匠会の職人から、切り出し（小刀）づくりやビデオで打刃物の工程を学び、切り出しで鉛筆削りも挑戦した。

与板打刃物は上杉謙信の家臣が刀職人を招いたのが始まりとされ、江戸時代には鉋や鑿など大工道具の産地として有名になった。校庭での切り出しづくり

体験では、熱したコークスで赤くなった鋼を前に、職人が「黒い鋼の色が変わったね」「形を整えて」などと声をかけた。金槌で鋼をたたいた児童らは顔を真っ赤にしながら、「熱くってたいへん」。

匠会長の久住誠一さん（79）は「伝統の与板打刃物を知って興味をもってもらい、自分ならこんな打刃物をつくってみたいという子供が将来できてくれたら」と話していた。

この日の切り出しは、職人が磨いて完成させ、子供たちに届けるという。